

社会情報分析法

2 単位 2 年 (後期)

矢部 拓也・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】社会科学において、社会調査はその研究の基礎となる方法論の一つである。その主な目的は、実際の社会における人々の様々な行為などに関するデータを収集し、分析することによって、それらを記述、説明することにある。つまり、社会調査とは、特定の社会的現象を、一定の方法を用いて言語化することであり、そのプロセス全体を指す。このクラスでは、ボーンシュテット/ノーキ (1990) をテキストに、そのような方法論を学び、実際の調査で必要な技術を身につけることを目指す。特に社会調査の量的手法 (サーベイ調査) に関する、SPSS (統計分析ソフト) を用いた演習が中心となる。既存の調査票とデータセットを用いて、自分の立てた仮説を検証し、その結果を解釈することが演習の目標となる。使用するデータに関しては、受講者の興味に即して、私がこれまでに関わり使用することのできるデータや、公開されているデータを使用しようと考えている。

【授業概要】社会調査の手法と統計分析

【キーワード】社会調査, アンケート調査, 量的調査

【履修上の注意】機器の台数や実習室の制約から受講者数を制限する場合がある。この授業を出席するものは、前期に開講される「社会統計基礎論」を履修しておくことを強く希望する。

【到達目標】サーベイ調査の手法に習熟することを目指す。

【授業計画】

1. 社会調査とは何か
2. 社会調査の方法と種類-量的方法と質的方法-
3. 社会調査の過程
4. 度数分布表
5. 度数分布の記述
6. クロス集計表 (カイ二乗検定)
7. 統計的推測と仮説検定
8. 2つの平均の差の検定 (t 検定)
9. 複数の平均の差の検定 (F 検定)
10. 2 変量回帰と相関
11. 離散変数間の関連を測定する
12. 多重分割表分析の理論
13. 重回帰分析
14. 因果モデルとパス解析

15. オリジナル分析のための討論会

16. 試験

【成績評価】授業毎に提出してもらった課題と期末レポート、および出席による

【再試験】行わない

【教科書】

- ◇ 社会調査方法論に関する教科書
- ◇ 森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社, 1998
- ◇ ボーンシュテット/ノーキ『社会統計学-社会調査のためのデータ分析』海野道郎/中村隆監訳, ハーベスト社, 1990
- ◇ 参考書
- ◇ 馬場浩也『SPSS で学ぶ統計分析入門』東洋経済新報社, 2002
- ◇ 鈴木義一郎『「比較」統計学のすすめ:違いを見分けるテクニック』講談社ブルーバックス (B-380), 1979
- ◇ ダレル・ハフ『統計でウソをつく法:数式を使わない統計学入門』高木秀玄訳, 講談社ブルーバックス (B-120), 1968
- ◇ 古谷野巨『数学が苦手な人のための多変量解析ガイド:調査データのまとめかた』川島書店, 1988
- ◇ 調査報告に関する参考書
- ◇ 佐藤俊樹『不平等社会日本:さよなら総中流』中公新書 (1537), 2000
- ◇ 岩井紀子・佐藤博樹編『日本人の姿:JGSS にみる意識と行動』有斐閣選書, 2002
- ◇ 佐藤博樹編著『社会調査の公開データ:2 次分析への招待』東京大学出版会, 2000

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219397>

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)